

高温（冬期）についての技術対策

野菜露地

【事前対策】

- ・ 予め暖冬が予想される場合は、一部のは種、定植をずらすなどし、暖冬による生育促進、収穫期前進がもたらす本来の収穫時期の品不足に備える取り組みも必要である。
- ・ タマネギ、キャベツは、年内に生育が進みすぎると花芽分化・抽台するので、品質低下、減収を招きやすい。このため、適期のは種や定植を心掛け、追肥は生育状況に合わせて行い、生育を急がせない。
- ・ 暖冬年は、高温、多雨、日照不足になりやすく、軟弱徒長的生育とともに、病害虫が多発しやすいので予防に努める。
- ・ トンネル栽培のレタス等では、昼間の換気に努め（目安として25℃以上にならないようにする）、夜間もトンネル内が多湿にならないように裾を少し開けておく。
- ・ トンネル栽培などでは、生育が早まるので、収穫適期を逃さない。
- ・ 保温目的にべたがけ資材等を用いている場合は、生育状況を見て取り除く。
- ・ 急な冷え込みや降雪により凍霜害が予想される場合は、トンネル管理等を徹底する。
- ・ 軟弱徒長的生育の下で、急激な低温や降雪による凍霜害・積雪害は、生育の停滞と病害の多発につながりやすい。凍霜害対策、積雪対策を図る。
- ・ 暖冬により越冬害虫が多くなると予想される場合は、春以降の発生密度が高まる恐れがある。特に、アブラムシ類、アザミウマ類、ヨトウムシ等の防除を徹底する。

【事後対策】

- ・ 軟弱徒長的生育の下で、急激な低温や降雪により凍霜害・積雪害が発生した場合は、病害防除や液肥の葉面散布等により生育の回復を図る。
- ・ 急激な低温による凍霜害により茎葉の一部が枯死すると、腐敗病等病害が発生するので早めの収穫につとめる。

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。